

サロベツで広がる 地域連携保全活動

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
嶋崎暁啓

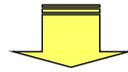
サロベツのご紹介



- * 北海道北部（豊富町周辺）
- * アイヌ語の「サル・オ・ペツ」が語源
- * 利尻礼文サロベツ国立公園
- * ラムサール条約湿地
- * 低地における日本最大の高層湿原

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク

- 平成16年4月に設立（今年で9年目）
- サロベツ及び周辺の豊かで美しい自然を次世代に引き継ぐことを目的とする



- 「自然環境の保全、調査研究及び環境教育活動を通して、自然と人間との共存の大切さを広く啓蒙し、併せて地域の発展、まちの活性化に寄与する」ことが活動の方針
地域づくりの担い手としての役割も持つ

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク

➤ 活動を支える会員の存在

地域住民の方々、農家や漁師、地元企業、商店、行政職員、小学校教員、大学教授や学生など
（宗谷管内はもとより札幌・東京含む）

正会員	67名
賛助会員	38団体
サポート会員	42名

※ 常勤職員5名体制



私たちの活動の
3本柱

湿原の今を知り、守る
環境保全活動

地域に根ざした
活動を展開



国立公園の動植物を守る
【外来種巡視・除去活動】

【木道巡視・維持管理】

人をつなぎ、輪を広げる
地域活動

伝え、未来を育てる
環境教育活動



【稚咲内砂丘林再生植樹活動】

【稚咲内海岸清掃】



【野生動植物調査】



【小中高校生への講習】

【サロベツ自然語講座】



【サロベツ川・ベンケ沼清掃】

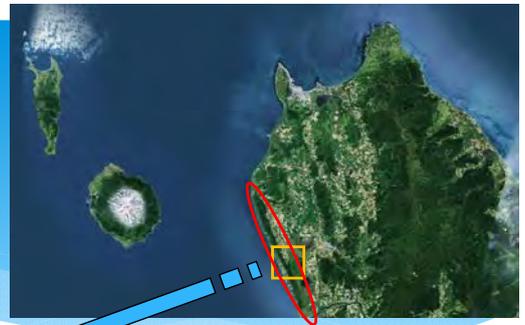


子ども向け自然体験活動
【なまら！！サロベツ∞クラブ】

稚咲内砂丘林再生活動紹介
～よみがえれ、みんなの砂丘林～



わかさかないさきゅうりん
稚咲内砂丘林とは



- 稚内市・豊富町
幌延町にまたがる
- 南北25km以上
- 砂丘の上に約4千年
かけて森林が成立

わかさかないさきゅうりん
稚咲内砂丘林とは

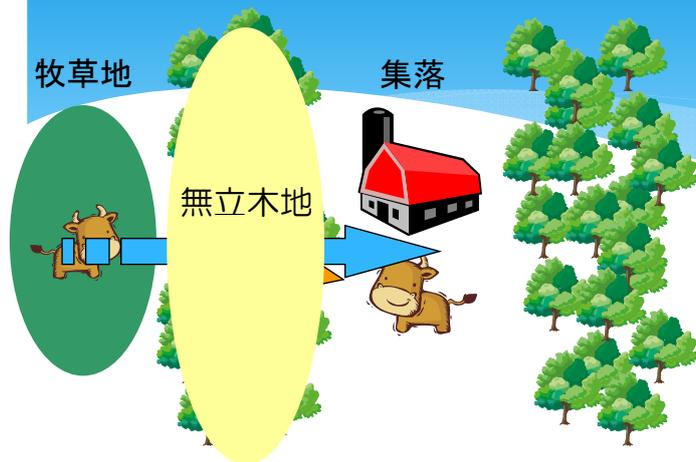


写真提供：岡田操氏

- 数列の帯状の森林と大小
170以上の湖沼群
- 貴重な動植物の宝庫
- 国立公園特別保護地区に
指定



失われた砂丘林…



- 過去に牛の横断があった
- 長年の暴風雪により立ち枯れ

→ 約3haの森林が失われ
無立木地化（裸地状態）した

それぞれにとって大切な砂丘林

地域住民

強風から地域の生活を守る防風林



冬場に深刻な交通障害が発生し、住民生活に多大な影響が出た

豊富町

町有林として大切な森



町有財産が失われた

国（環境省）

国立公園（国民の財産）の中の森



特別保護地区の貴重な森が失われた

→ 砂丘林が無くなり、非常に困った

協働による取り組み

●平成17年度 稚咲内砂丘林再生検討委員会設立



- 稚咲内町内会
- 豊富町
- 環境省
- 宗谷総合振興局
林務課・森林室
- NPO法人
サロベツ・エコ・ネットワーク など



対象地の様子



- 土壌は20cm程度でその下は砂地
- 海からの強風が直撃
- 10m四方の防風柵（68区画）を設置

H17年度からの取り組み



- H17～H19年度

現地産14,000個のドングリを直接、柵内再生地に播種
→ 厳しい自然環境・土質のため、いずれも失敗に終わる

- H20年度～

苗畑で苗木を育てた後、植樹する方法に転換

今年度の活動



今年度は1,561本の苗木を植樹
合計2,555本、全68区画に植樹を完了！

150本のその他の樹種(エゾヤマザクラ・イタヤカエデ・マユミ等)の苗木も順調

砂丘林再生に向けた課題

* 時間の問題

→ 森になるまでには長い年月がかかる

* 費用の問題

→ お金がかかり、気持ちだけではできない。

* 継続性の問題

→ 高齢化、人口減、地域の小学校の廃校



私たちの取り組みは
これからも続きます



苗木を管理するための人手確保が課題

これまで以上に多くの人に

森づくりを支えてもらえるように…

ぜひ砂丘林再生活動にご協力下さい！